

◇ 開催日時及び場所

令和6年12月23日(月)午後2時30分から午後4時00分まで  
オンライン(ZOOM)開催

◇ 会議構成員

配布資料の名簿のとおり  
※以下、発言者は組織名の略称で記載

◇ 座長

保健・疾病対策課長

◆ 開会

---

◆ 議事

(1) 骨髄バンク事業における役割分担について

県から説明(資料1)

- ・骨髄バンク事業における役割分担について説明。
- ・役割分担には記載されていないが、ボランティア団体の協力も不可欠。ボランティア団体は、ドナー登録会で説明員をしたり、普及啓発にお力添えいただいている。

(1) 骨髄バンクの現状について

① 全国の現状と課題

日本骨髄バンクから説明(資料2)

- ・普及啓発に特化して説明。
- ・有名アスリートや歌手が血液疾患を患ったことを公表したことにより、ドナー登録者は大きく増えたが、40～50代の増が主で、若年層の増にはあまり効果がなかった。
- ・新型コロナウイルスの影響で大学の門が閉まったこと等により、若年層の登録者が減。その後、ワクチン接種等が進み対面授業が増えたことで、コロナ禍前の状況に戻ってきた。
- ・今後、登録取消者数が増えていく。現在の登録者は40代以上が58パーセント。ドナープール縮小回避のため、若年層ドナーの登録拡充が重要。
- ・骨髄の提供は、拘束時間が長く、ドナーの負担は大きい。
- ・都合がつかずコーディネートが終了する割合が4割程。20年間この傾向は変わらない。
- ・20～30代のドナーは健康状態が良く提供できる方が多く、移植後の治療成績も高い。
- ・令和8年度から、スワブ検査及びオンラインによるドナー登録の本格導入を予定している。これが実現すれば登録会や保健所に足を運ばなくてもドナー登録ができるようになる。
- ・スワブ検査及びオンライン登録について、チラシを配ってもなかなか受け取ってもらえない、受け取ってもらっても、QRコードを読み込んで検査キットを取り寄せてもらうところまでいくことが極めて難しい現状がある。
- ・オンラインで募集したところ、応諾率が高かった。また、対面でのスワブ採取も応諾率が高かった。
- ・スワブキットでの採取は便利であるが、検査までに時間がかかるので、1割くらいは再検査が必要になっており、工夫が必要。
- ・スワブでも献血併行登録会でも、大学や教育機関で登録会を実施すると若年層の登録者が増える。
- ・移植率向上のために、ドナー休暇制度、ドナー公欠制度導入の働きかけが重要。
- ・教育機関での語りべ講演会(オンライン可、無料開催)を検討いただけるとありがたい。
- ・最近、四国では、語りべ講演会の後に併行登録会を行う事例も増えている。

② 長野県の現状について

県から説明(資料3)

- ・長野県のドナー登録対象年齢人口千人あたりのドナー登録割合は未だ全国平均以下。全国平均並み

にするためには、3,820人程度の増加が必要。

- ・県内の新規ドナー登録は、主に献血併行型での登録である。
- ・昨年度開催された献血併行型登録会について、地域別に分析すると、佐久・長野地域の回数が多く、松本・長野地域の登録数が多い。松本・大町地域は開催数に比べて登録者数が多い傾向。
- ・商業施設、市役所等での定期的な開催と企業、イベントでの開催が効果的。
- ・県の骨髄バンクドナー助成事業補助金は53市町村で導入済み。

### ③ドナー登録会の実施状況

#### 赤十字血液センターから説明（資料4）

- ・開催場所は主に移動採血の会場で、説明用のスペース確保が可能であること、会場側の手配が得られること、一般公開している会場か、をもとに選定し、その中から説明員が参加可能なところで登録会を実施している。
- ・市役所や役場などの公共施設は条件を満たしやすいため開催数が多い傾向になる。
- ・若年層ドナーを増やすため、会場の献血者の年齢層を考慮して、成果が期待できる会場での開催を計画するよう努めている。
- ・10月の推進月間では、献血ルームでも開催。

#### ○不測の事態が発生時の近隣施設との連携体制について 県から説明（資料5）

——【骨髄採取・移植認定施設からの意見】——

#### 信州大学医学部附属病院（齋藤）

- ・機器は2台あるので、1台でこういったトラブルが起きた場合でも、もう1台で対応できるため、近隣施設にお願いするということはないと思われる。
- ・もし県内施設で機器のトラブルがあった場合はお声がけいただければ可能な限り対応したい。

#### 長野赤十字病院（植木）

- ・機器は1台で、以前一度基盤が壊れたことがある。骨髄バンクのドナーでもこういったことがゼロではないということを感じた。
- ・通知後、何か対応をしたわけではないが、こういったことが起こった場合は近隣施設で連携して対応できればと思う。

#### まつもと医療センター（伊藤）

- ・機器は1台。通知が出てから複数台も検討したが、財政的に対応は難しい。
- ・県内での緊急時の対応を話し合う機会を持てればと思う。

---

### （3）活動報告について

#### ①長野県の取組について

##### 県から説明（資料6）

- ・R5年度は、骨髄バンク登録について考えてもらう取り組みとして、WEB広告を実施。その他例年と同様の取組を実施。
- ・R6年度は、登録を後押しするインセンティブの企画として、信州ブレイブウォリアーズのホームゲームでの登録会で選手サインプレゼントを開催。（結果：11名の登録）  
また、献血ルームや保健所の登録者に信州ブレイブウォリアーズの選手サインをプレゼントする企画を実施。（途中経過：開始1週間現在で2名の登録）その他例年と同様の取組を実施。
- ・骨髄提供に向けた取組として、産業労働部の職場改善環境アドバイザーを通じて補助金や休暇制度を周知するチラシを配布できるよう検討中。
- ・登録者の多い他県の担当者に聞き取りを行ったが、特別な取組をしている認識はないようであった。

#### ②各団体からの報告（資料なし）

##### 骨髄バンク長野ひまわりの会から説明

- ・8年前に団体を立ち上げ、活動してきている。現在、説明員は21名。

- ・子どもたちにも骨髄バンクを知ってもらうため、諏訪圏内の小中学生 14,000 人にひまわりの種を配布し、植物を育ててもらい、骨髄バンクについて周知するというをやっている。子どもたちが育てたひまわりの種を回収し、翌年配ることを「命のリレー」として実施している。
- ・諏訪湖マラソンで啓発ティッシュの配布、長野大学の学祭での啓発等、若年層に向けた取り組みを行っている。
- ・看護学校で講師として骨髄バンクのことを教えている。生徒からは、公欠制度を導入したいという声も多かった。
- ・年に一度骨髄バンクに関する映画をどこかで上映し、シンポジウムを行い、ドナー登録を行う、という機会を設けたい。4～5年前に諏訪市でやったことがある。医師や看護師を用意しないといけないが、そこは県の方で対応してほしい。
- ・説明員が少なくなってきた。県の方で説明員を増やすことを考えてもらってもいいのではと思っている。

## ライオンズクラブ国際協会 334-E 地区からは質問のみため次に記載

### ——【質問・意見等】——

#### ライオンズクラブ国際協会 334-E 地区（橋爪）

- ・中信地区のライオンズクラブのメンバーから、昔は献血車で併行登録会があったが、最近やらないのはどうしてかと言われたが、どうか。

#### 血液センター（原山）

- ・松本市でもやっているが、市役所等公共施設が多くなっている。

#### ライオンズクラブ国際協会 334-E 地区（橋爪）

- ・併行登録会を行うには、献血と一緒にやることはできるか。

#### 血液センター（原山）

- ・献血バスにおいて併行登録会を行っている。

#### ライオンズクラブ国際協会 334-E 地区（橋爪）

- ・助成補助金制度について、県の関連する入札業者で、ドナー登録者の多い企業に入札点数に反映することはできるか。ボランティア活動をやっている企業は点数が良くなる等あるか。

#### 保健・疾病対策課

- ・入札制度において企業をそういった形で評価する制度はあるが、骨髄バンクのことだけで何かができる、という印象はない。

#### ライオンズクラブ国際協会 334-E 地区（橋爪）

- ・助成金はあるが、経営者にそういったメリットがあるように運動してもらいたい。

#### ライオンズクラブ国際協会 334-E 地区（橋爪）

- ・岡谷市の消防署で献血を行ったところ、消防団の団長が団員に献血を呼びかけたことで多くの団員が協力してくれた。こういったところで併行登録会ができれば、消防団は若い方も多いので登録してくれる人が多いのではないかと思います。こういったところで併行登録会を行うにはどうしたらいいか。

#### 血液センター（原山）

- ・そういったお話をいただけるのは大変ありがたいので、ライオンズクラブまたは実施する消防団等から血液センターにひと声かけていただきたい。

#### ひまわりの会（笠原）

- ・毎月色々なところに献血バスが行くが、どこでも登録会ができるわけではないと聞いている。場所によっては、登録会を行うスペースが確保できないからドナー登録会もできないということになるか。

#### 血液センター（原山）

- ・スペースの問題もあるが、献血も予約を行っており、事前にかかなりの数の予約が入っているとセンターとしても対応できない恐れがあり足踏みしてしまう状況もある。

#### ひまわりの会（笠原）

- ・そういった状況もあるようなので、ライオンズクラブにも協力いただき、先ほど言っていた消防団等スペースがあるところで開催できればと思う。

#### ライオンズクラブ国際協会 334-E 地区（橋爪）

- ・よろしくお願ひします。

## （４）ドナー登録者の増加に向けた今後の取組について

### 県から説明（資料７）

- ・世論調査の結果から、骨髄バンクドナーの周知だけでは登録の増は望めない。

- 「知っている」人は多くても「登録する人」は僅か。
- ・工夫した広告でも、登録者増が望めない。
  - WEB 広告の効果はあまりなかった。
- ・登録を後押しするインセンティブは有効である。
  - 令和3年度のステンレスボトル、平成30年度の巨人軍選手のサイン、令和6年度の信州ブレイブウォリアーズ選手のサインで登録者増。
- ・献血ルーム等へ、登録のために足を運ぶほどのインセンティブとは
  - 「なかなか手に入らないモノ」かつ「多くの人々がほしいと思うモノ」が必要である。
- ・これまでの取り組みから分かったことを踏まえ、令和7年度は、県内プロスポーツチームの試合会場での登録会（+選手サイン配布）を継続。そして新たに、本会議の構成員の皆さまと協働で何かできないかを議論したい。

---

## 【意見等】

### 日本骨髓バンク（林）

- ・日赤では、献血してラブラッド会員になることを条件にモバイルバッテリーをプレゼント、ということを行い、ラブラッド会員を集めている。献血ルームで定期的に成分献血をする方を育成している。献血に相乗りするような形だが、そういった方々に骨髓バンクの案内をすると聞く耳を持っていただける。初回の献血者より、献血リピーターに案内した方が効果的。
- ・ラブラッド会員を増やし、献血リピーターを育成し、ラブラッドのシステムを使って献血に動員をかける。そうすると大学献血が潤う。
- ・ジュース1ダース、レッドブル、カップ麺、等のプレゼントも学生に喜ばれる。メーカー協賛のため、お金はかからない。
- ・白門ライオンズクラブ（中央大学の関係者）が、血液センターに、献血者にプレゼントする用のモバイルバッテリーを寄付。これがSNSで話題となり、大学献血の成績が非常に良くなった。
- ・ライオンズクラブや企業がスポンサーとなり、献血に貢献することで、結果がすぐに出ている。

### ライオンズクラブ国際協会 334-E 地区（橋爪）

- ・関係するライオンズクラブに連絡を取って確認したい。どこになるか。

### 日本骨髓バンク（林）

- ・白門ライオンズクラブと三軒茶屋ライオンズクラブ。三軒茶屋ライオンズクラブは白馬ライオンズクラブと関わりがある。

### ライオンズクラブ国際協会 334-E 地区（橋爪）

- ・まずは白馬ライオンズクラブに連絡を取り、三軒茶屋ライオンズクラブや白門ライオンズクラブにも状況を確認する。

### 保健・疾病対策課

- ・「登録に足を運んでもらえるモノ」として、大学生にモバイルバッテリーやジュース等の意見が出たが、献血会場に来た人の登録の後押しをするものとして、どのようなものがあるか。上田保健所いかがか。

### 上田保健所（濱口）

- ・「多くの方が欲しいモノ」という点では、先ほど挙げた食べ物、普段手に届かない高級な食べ物なども良いのではないかと感じた。

### 保健・疾病対策課

- ・ひまわりの会はいかがか。

### ひまわりの会（笠原）

- ・以前行ったステンレスボトルのような日常で使えるものがあるか。看護学生に、何が欲しいか、何がもらえると嬉しいか聞いたところ、クリアファイルやシャープペンシル等は他でもらうので要らないが、ウェットティッシュ等は開く時に目に入り、使い勝手も良いという意見があった。お菓子やジュースは献血ルームに行けばもらえるが、長野県内では献血できる場所が少ない。献血バスが大学に行くなど、若年層のいるところへ献血ができる場所を増やすことが、何をあげるかの前に重要だと思う。なお、モバイルバッテリーは良いと思った。

### 血液センター（中澤）

- ・血液センターとしては、大学や専門学校等へ献血バスを配車させていただいているが、献血で止まっており、その先まで学校の担当者と話が進められていないという現状がある。
- ・市町村役場やショッピングセンターでは併行登録会をお願いできているが、大学や専門学校等へは献血をお願いすることが精いっぱい、なかなかその先までお願いすることが難しい。
- ・インセンティブについて、献血していただいた方にも何かしら記念品をあげるようにしているが、日

本赤十字社からの指示で予算はだいたい決まっている。東京都と長野県では献血者の数も桁違いであるため、モバイルバッテリーは費用的に難しいと思われる。

#### 保健・疾病対策課

- ・なかなか難しい議題で、まとめるのも難しいところだが、皆さまの議論を受け、医療連携の話、どのような会場で行っていくのがいいのか及びノベルティ（出資していただける方を含む）について、どのような取組をしていくのがいいのか考えていく必要があると感じた。当課においても、これらの課題を整理しながら進めてまいりたいと思う。

#### ◆ その他

##### 信州大学（齋藤）

- ・先ほどの議題について、病院ではドナーが来られるところから始まっているが、色々のご尽力いただいた結果、ドナーの登録に繋がっているのだということを変更して認識した。私自身は、医療系の医学部の学生や臨床検査技師の学生の講義も担当しているので、例えば登録会の情報をメーリングリスト等で流していただけると、講義資料に掲載し、少しアナウンスできるかと思った。そういったことは可能か。

#### 保健・疾病対策課

- ・毎月、血液センターから連絡いただく献血併行登録会の日程を、当課から保健所に流しているのですが、その際に齋藤先生にもご連絡させていただけたらと思う。

##### 長野赤十字病院（植木）

- ・先ほどのインセンティブの話について、プレミア感のあるものというのもいいが、本人が社会貢献したということが他の人にもパッと見て分かるものが、誇りになり、ふさわしいものなのではないかという気がする。
- ・広告には効果がなかったということだったが、広告も捨てたものではないと思っている。骨髄バンクが始まった頃に、夏目雅子さんの出る非常にいい広告があり、人々の心を震わせ、登録数が大きく伸びた。また、サッカー選手の井原正巳さんが自らドナー登録をし、「メンバーが足りない」と呼びかけた広告や、本田美奈子さんの広告でも登録者数が増えた。
- ・池江選手が白血病になった際には骨髄バンクドナー登録への社会的関心が非常に高まり、登録者が大きく増えた。社会的に影響のある人で心を動かすような広告をうまく作れば、今でも効果的なのではないかと思う。テレビCMがいいかYouTubeの広告等がいいか、発信の仕方は過去と変えた方がいいかもしれないが、広告も今でも効果はあるのではないかと思う。

#### 保健・疾病対策課

- ・外から見て「この人はドナーである」ということが分かり、誇らしく思えるものについて検討したい。
- ・広告については、おそらく県単独で作るよりも全国的に作っていった方がクオリティの高いもの、人の心を震わせることができるものを作ることができると思われる。県単独でやるのか、国に要望していくのか、ということも含めて検討していきたい。

##### ひまわりの会（笠原）

- ・先生たちに病院の状況を聞きたい。自分は12年前に諏訪の日赤で骨髄移植を受けたが、当時病院内に骨髄バンクのポスター等は全くなかった。自分も移植を受けるまで骨髄バンクの存在を知らなかった。ポスターやチャンス（冊子）等を行政、病院、学校等色々なところにおき、まず知ってもらうことが重要だと思っているが、先生方のご意見を伺いたい。

##### 信州大学（齋藤）

- ・今までそこまで考えていなかったのが正直なところ。自分は小児科だが、病院で治療にかかった子が将来医療の道を目指すということもある。そういった中で、ポスターを貼る等しておくのは有効かと思うので、そういった視点でも考えてみたいと思う。

##### まつもと医療センター（伊藤）

- ・当センターでも、ドナーのリクルートといった掲示物はないのが現状。病院は患者が来るところなので、本来ドナーにならない方がほとんど。
- ・経験上、提供いただいている方で多いのは、「友達が病気になった」、「家族が病気になった」という方。
- ・病院でドナー登録等の情報を分かりやすく提供できる機会があればいいが、基本的に病院に来るのは病気の方であるので、そういった中で何ができるのかというのは、我々も考えていきたい。

##### 長野赤十字病院（植木）

- ・伊藤先生の意見のとおり、病院だと付き添いの方の年齢層も高く、若い人の呼びかけに効果がある場所ではないという気がする。
- ・日赤でいうと、献血センターといった、ボランティア精神溢れる方が来るところにポスターやチャンスを置くというのが最も効果的だと思う。

- ・他に病院でやっていることとすると、ドナーになってくれた方をとにかく褒め、「ドナーになって良かった」と思ってもらうこと。その人の友人等にその輪を広げてもらえるよう心掛けている。

#### **飯田保健所（吉川）**

- ・飯田保健所でも登録窓口を設けているが、基本的に登録者は1桁。
- ・昨年、18歳の方が2人登録に来た。いずれも「ずっとやりたかった。18歳になってようやく来れた。」とのことであった。やはり、小さいうちから知識を持っている、やってみたいという気持ちを持つことは大切だと感じた。
- ・看護学生の実習生が来る際に、骨髄バンクの話を入れるようにしている。医療系の学生なので、骨髄バンクのことを知ってはいるが、やはりやってはないということだった。
- ・飯田保健所でも登録はできるが、平日しかやっていないので、なかなかハードルが高いと感じた。

#### **保健・疾病対策課**

- ・まだまだ骨髄移植、末梢血幹細胞移植がどんなものか、よく分からない、違いが分からない、何をされるか分からなくて怖い、という入口のところで躓いているという気もしている。具体的に何をするのかという入口部分の啓蒙活動も大切だということは常々感じているところである。

#### **松本市保健所（上村）**

- ・松本市では、平成9年から三献（献眼、献腎、献血）運動ということで、推進月間で色々な活動をしてきたが、現在は三献に加えて骨髄提供の活動もしている。
- ・12月には松本駅前啓発活動を行った。
- ・1月22日に松本市役所で献血があるので、その際に少しでも骨髄バンクドナー登録の呼びかけもできればと思っている。市民大会の際に血液センターの所長から臍帯血バンクのことも聞いた。その辺も併せて、松本市役所の献血時に呼びかけ等をできたらと思っているので、何かご教示いただきたい。

#### **保健・疾病対策課**

- ・1月の活動について、是非そういった取り組みを行っていただきたいと思う。どこからどういう風に行っていただくか、また相談させていただきたい。

---

#### **◆ 閉会**

(了)